



散瞳剤

ネオシネジンコウ5%点眼液

NEOSYNESIN KOWA 5% EYE SOLUTION

(フェニレフリン塩酸塩点眼液)

貯法：密栓、遮光、室温保存
開封後は、酸化をうけやすいので、密栓し、できるだけ光を避けて保存のこと。
使用期限：外箱等に表示

承認番号	愛薬5898
薬価収載	1959年10月
販売開始	1955年8月
再評価結果	1977年7月

*** 禁忌(次の患者には投与しないこと)**

- (1)狭隅角や前房が浅いなどの眼圧上昇の素因のある患者〔急性閉塞隅角緑内障の発作を起こすことがある。〕
- (2)本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

組成・性状

販売名	ネオシネジンコウ5%点眼液
成分・含量	1mL中 フェニレフリン塩酸塩 50mg
添加物	亜硫酸水素Na、クロプロタノール、クエン酸Na、ホウ酸、エデト酸Na
色調・剤形	無色澄明・無菌水性点眼剤
pH	4.0~6.0

効能・効果

診断または治療を目的とする散瞳

用法・用量

通常1回、1~2滴宛点眼する。

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)小児〔「小児等への投与」の項参照〕
- (2)高血圧症の患者〔本剤の血管収縮作用により、急激な血圧上昇作用があらわれるおそれがある。〕
- (3)動脈硬化症の患者〔本剤の血管収縮作用により、閉塞性血管障害が促進されるおそれがある。〕
- (4)冠不全または心不全などの心臓疾患の患者〔症状を悪化させるおそれがある。〕
- (5)糖尿病または甲状腺機能亢進症の患者〔症状を悪化させるおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意

- (1)隅角の診断が未確定のまま本剤を投与しないこと。
- (2)シクロプロパン、ハロタンなどで全身麻酔する前には、本剤の投与を休止すること。
- (3)本剤を投与した患者には散瞳が回復するまで**自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること**。また、サングラスを着用するなど太陽光や強い光を直接見ないよう注意すること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
MAO阻害薬	MAO阻害薬で治療中または治療後3週間以内の患者では急激な血圧上昇を起こすおそれがあるので、慎重に投与すること。	本剤はMAOによって代謝される。併用により代謝が阻害され、体内に蓄積し作用が増強する。
三環系抗うつ薬 イミプラミン アミトリプチリン 等	本剤の作用が増強され、急激な血圧上昇を起こすおそれがあるので、慎重に投与すること。	三環系抗うつ剤はカテコラミン類の神経細胞内への再取り込みを阻害し、受容体部分での交感神経興奮アミンの濃度を増加するため、作用を増強すると考えられる。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等副作用頻度が明確となる調査を実施していない。

次のような副作用があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症	眼瞼の発赤・腫脹・痒痒感、接触皮膚炎
眼	結膜炎、充血、角膜上皮障害(角膜びらん、点状角膜炎等)、眼圧上昇
循環器	血圧上昇

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

7. 小児等への投与

小児等への安全性は確立していないので、慎重に投与すること。〔全身の副作用が起こりやすい。〕

8. 適用上の注意

- (1)投与経路：点眼用のみ使用すること。
- (2)投与時：1)点眼に際しては原則として患者は仰臥位をとり眼を開眼させ、結膜嚢内に点眼し、1~5分間閉眼し、涙嚢部を圧迫させた後開眼する。
2)点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。

9. その他の注意

- (1)長期にわたり散瞳していると虹彩が癒着するという報告がある。
- (2)変色したり、沈殿を生じたものを使用しないこと。

薬効薬理

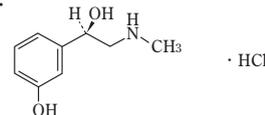
フェニレフリン塩酸塩は選択的 α_1 受容体刺激作用薬である。健康成人における散瞳は迅速であり、また、通常5~6時間で正常に復す。¹⁾²⁾

有効成分に関する理化学的知見

一般名：フェニレフリン塩酸塩(Phenylephrine Hydrochloride)

化学名：(1R)-1-(3-Hydroxyphenyl)-2-methylaminoethanol monohydrochloride

構造式：



分子式：C₉H₁₃NO₂·HCl

分子量：203.67

融点：140~145℃

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。水に極めて溶けやすく、エタノール(95)に溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。1.0gを水100mLに溶かした液のpHは4.5~5.5である。

包装 10mL

主要文献

- 1) 宮崎茂夫他：臨床眼科, 9. 802 (1955)
- 2) 戸松 靖治：臨床眼科, 9. 1010 (1955)

**文献請求先及び問い合わせ先

興和株式会社 くすり相談センター

〒103-8433 東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

電話 0120-508-514

03-3279-7587

受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日・弊社休日を除く)